

裏 「申し込みカード」読みとり方法

「中1不登校」の
早期発見と初期対応のために
小学校と中学校をつなぐもの
です。

①～⑤は、不登校の早期発見のために、客観的に児童の姿を記す部分です。

※基準を参考にしながら見て下さい。

①～⑤にチェックがある場合は、新しい環境に適應できず、不登校になる可能性がある児童です。くわしくは「小・中情報交換会」で、口頭で説明があります。

① 欠席状況 等

○ 欠席日数

欠席理由は問わない。

(インフルエンザなど)

出席停止が長引いた場合はその旨をメモする。

○ 保健室等登校

登校したが教室には全く行かず、保健室や相談室などで過ごした日数。

○ 遅刻・早退日数

遅刻と早退を合計した日数。

※基準

- ア ★(6年生の状況) 15日以上
イ ▲(4～6年生の状況) 15日以上
ウ □ 適応指導教室 にチェックがある

アイウのうち、ひとつでもチェックがあれば現在不登校状態、または不登校の可能性あります。児童の背景をきちんと聞き取り、裏⑧にメモしておきます。

② ひんぱんな保健室利用／養護教諭記入 (5・6年の様子)

教室に自分の居場所を見つけられない、ひとつのサインです。

③ 参加しなかった大きな行事 (5・6年の様子)

健康管理を含めて、本人や本人を支える周囲の弱さが表れます。友人関係などに、大きなストレスを感じる傾向があります。

④ 学力面 (6年時を中心に)

※「課題あり」の基準

- ア 全般的な学力不振
イ 得手不得手に偏りが見られる

「課題あり」の場合は、⑥⑦を参考にしながら効果的な支援方法を聞き取り、裏⑨にメモしておきます。

⑤ 交友関係 (6年時を中心に)

※「課題あり」の基準

- ア かつて友人関係でトラブルがあった
イ うまくクラスになじめない

「課題あり」の場合は、エピソードを中心に、口頭で具体的に児童の姿を聞き、裏⑩にメモしておきます。

⑥⑦は、中学校での支援に役立てるためのものです。

中学校は、⑥⑦を参考に初期対応をします。①～⑤に1つでもチェックがある場合は、記入があります。

⑥ 本児に対する指導の工夫・配慮 (効果的だったものを中心に)

⑦ 趣味、特技、現在興味をもっていること

効果的だった工夫や、本人の得意なことが記入されています。

